



国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所

観光の再開:世界の国の 40%が旅行制限を緩和

2020年7月30日付 UNWTO 本部発表の和訳です。

原文はこちらから：<https://www.unwto.org/news>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関連する旅行制限を緩和し、ニューリアリティ（新しい現実）に適応しようとする国の数が増え、世界中で責任ある観光が再開されています。UNWTOの最新の分析によると、**世界の40%の国々が新型コロナウイルス感染症に対応するために国際観光に課していた制限を緩和しています。**

UNWTOは、今回の危機が始まった段階から、パンデミック(世界的大流行)に対する各国の対応をモニタリングしてきました。7月19日付の最新の発表では、6月15日までに**旅行制限を緩和した国は22%増加**し、5月15日までに確認された3%という値から上昇しています。このことは、国際観光の責任ある再開が、**緩やかではあるものの継続的になされていることを示しています。**

しかしながら同時に、現在旅行制限を緩和している87の国のうち、**すべての制限を完全に解除したのはわずか4か国のみ**であり、残りの83か国は国境の部分的な閉鎖などの措置を講じながらの緩和となっています。**UNWTOが旅行制限についてまとめたレポート「UNWTO Travel Restrictions Report」**の最新版では、115か国(世界すべての国の53%)が観光のための国境を完全に閉鎖し続けていることが示されています。

責任ある再開は可能

UNWTOのズラブ・ポロリカシュヴィリ事務局長は、「公衆衛生を保護しながら、一方で、企業や人々の生計を支援してはじめて、責任を持って観光を再開することがで

きます。各国が旅行に関する制限を緩和し続ける中で、国際的な協力が最も重要です。このようにしてこそ、私たちが現在直面しているニューリアリティへの適応に協力して取り組むために、世界の観光は人々の信用と信頼、必要不可欠な取組の基礎を獲得することができます。」と述べました。

UNWTO の報告書によると、観光への依存度が高い国々は、旅行の制限を緩和している可能性が高いようです。最近になって制限を緩和した 87 か国のうち、20 か国は小島嶼開発途上国(SIDS)であり、その多くは雇用、経済成長、開発の中心的な柱を観光に依存しています。この報告書はまた、制限を緩和したすべての国の約半分(41 か国)がヨーロッパ地域にあり、責任ある観光再開に向けた主導的役割を果たしていることを確認しています。

多くの国は依然として長期的なロックダウン中

この報告書は、国際観光に対して、国境を完全に閉鎖し続けている 115 か国のうち、その過半数(88)が **12 週間以上**も国境を完全に閉鎖していることを指摘しています。

新型コロナウイルス感染症に対応するために導入された旅行制限に関連するコストは、歴史的な規模となっています。今週、UNWTO は、国際観光客到着数の大幅な減少と収益の損失という両方の観点で、パンデミックが観光に与えている影響に関するデータを発表しました。このデータは、この5月末までに、2009年の世界経済危機の際の3倍となる **3,200 億米ドルの収益がこのパンデミックによってすでに失われていることを示しています。**

関連リンク先:

[UNWTO が旅行制限についてまとめた UNWTO Travel Restrictions Report](#)

[新型コロナウイルス感染症に関する旅行制限](#)

[UNWTO が観光の停止状態によるコストを算出する中で明確になった、新型コロナウイルス感染症が世界の観光に与える影響](#)